

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東北)	◎	テーマパーク（職員）	・気温の上昇とともにプールなどのレジャー需要が本格化するため、ファミリー層を中心に利用者数の増加が見込まれる。それに伴い、飲食や物品購入などの消費活動も活発化し、景気は上向くとみている。
	○	商店街（代表者）	・夏祭りを始めとしたイベント開催などにより、観光客の増加が期待できる。
	○	百貨店（経営者）	・新規顧客や県外客の増加により、来客数の増加は続くとみている。
	○	コンビニ（経営者）	・夏に向けた本部施策に期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・例年より暑くなる見込みのため、冷たい商材の販売拡大が期待できる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入により販売数が伸びるとみている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新型車効果が見込める。
	○	乗用車販売店（店長）	・中東情勢や価格上昇の影響により消費マインドは低下しているが、一過性とみている。各社が国内で新型車を発表し、価格改定も進んでいることから、市場全体としては盛り上がっている印象を受ける。
	○	都市型ホテル（支配人）	・インバウンドに加え、夏休み期間などがあり国内客の予約も好調である。
	○	旅行代理店（従業員）	・自治体が発行している宿泊クーポンが好調で、既に予算額を消化したとの情報がある。6～7月の該当日において稼働が上がるとみている。
	○	通信会社（経営者）	・サービスエリアを拡大したため、放送サービスを中心に新規加入者数の増加が期待できる。また、拡大エリアが大学地区のため、通信サービスについても集合住宅や学生寮等の一括導入が期待できる。
	○	観光名所（職員）	・ガソリン価格や輸送コストは高騰しているが、来客数、売上に減少はみられない。インバウンドの予約も好調である。
	○	競艇場（職員）	・夏場は乗場促進イベントを多数計画しており、売上増加を見込んでいる。
	○	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・エアコンの省エネ基準変更による駆け込み需要は増えるとみている。また、補助金を活用したリフォーム工事も増えるとみている。
	□	商店街（代表者）	・中東情勢の先行きが不透明であることから、景気停滞が続くとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・来客数の減少により、今月の売上は前年比96.8%になっている。来月以降も客足は鈍いまま変わらないとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月のような急激な来客数の減少は過去になく、これ以上の悪化は考えにくい。
	□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・景気が良くなる限り、厳しい状況は続く。
	□	一般小売店〔茶〕（経営者）	・中東情勢の先行きは不透明だが、現状の様子から景気は少しずつ良くなっていくとみている。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・景気が停滞するなかで物価上昇は続くとみている。消費者の不安は大きく、金を使いきにくい状況は変わらない。不透明な先行きに不安しかない。
□	百貨店（企画担当）	・来客数の減少が続いているなか、物価高の影響も続くとみており、先行きは不透明である。	
□	百貨店（従業員）	・中東情勢に伴う資材の供給不足や各種物価高など、生活防衛意識による買い控え傾向は継続し、景気に変化はみられないと考える。	
□	スーパー（経営者）	・6月には食品等の値上げのほか、公共料金やインフラ経費の負担増もあり、消費環境は一層厳しくなる。価格抑制対策により買上点数はやや回復しているが、前年には至らない。当面の消費環境は変わらないとみている。	
□	スーパー（店長）	・消費が落ち込む月に入るが、自治体発行の商品券の効果はもうしばらく続くとみている。	
□	スーパー（店長）	・値上げが相次ぐなかで、販売点数は伸び悩むが単価が上がっているため、売上は前年並みとみている。	
□	スーパー（店長）	・食品の値上げが続いているため、変わらないとみている。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・ガソリン価格の高止まりなどの影響から客が移動回数を減らすために買物の回数を減らしていると考え、今後も同様の動きが予測される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・節約志向が高まるなかでも、必要な物を必要な分は購入する傾向は変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店舗運営）	・来客数は現状並みで推移する見込みである。ただし、原油価格高騰に伴う値上げの影響により、買い控えの動きが強まり、食料品の購入に影響が出ることを懸念している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（業務担当）	・中東情勢の先行きが不透明で、好材料が少ない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・ガソリンや食品の値上がりの影響が大きい。当店でも食品や雑貨を始め、全体的に価格が上昇しているため、売上は横ばいで推移している。先行きは悪化の懸念はあるものの、現状維持にとどまることを期待している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・当地域は人口が年々減り続け、給与水準も全国と比べて低いため、当店の経営が改善されることはなく、悪化が続いていくとみている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・盛夏の天候、気温により変動するが、全体的な動きは変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・来客数の減少は今後も続くともみている。景気の本格的な回復は見込めない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・良くなる要素がない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・お中元商戦に向けて、訪問回数の増加やギフトカタログの配布等を行い、売上に結び付けていく。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による節約志向は続くとみている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・メーカーの生産量と配車量に大きな変動がない限り、販売店の利益が大きく増えることはない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	・現在の受注残をみると、物件数、金額共に減少しており、今月とさほど変わらない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・国内だけでなく世界情勢の影響もあるため、想定どおりには進みにくいとみている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔靴〕（経営者）	・中東情勢など先行きの不透明感や物価上昇、品不足の影響により、消費者は生活を守ることを優先していて、趣味や旅行に支出する割合が減少している。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着いたとしても、商品の需給バランスの乱れは続くとみている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着くまでは資源や製品の不足は解消されず、販売量の増加は難しいとみている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（支配人）	・来客数は低水準で横ばいが続いており、回復の兆しはないため、3か月先も変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・予約は小規模な宴会が多く、大人数の宴会はないため、やや悪い状況は変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・中東情勢次第である。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・好転する要素が見当たらない。
<input type="checkbox"/>	観光型旅館（スタッフ）	・観光ニーズが高まる時期のため、今月と変わらないとみている。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（スタッフ）	・夏は国内旅行の需要が高くなるため、来客数に変化はないとみている。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・7～8月は暑くなることに加え、お盆休みもあることから利用者は多くなる。
<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しく、現状維持とみている。
<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・例年並みの実績が続くとみている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・物価高の影響により、支出を抑える動きは続くとみている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・客の様子をみると、旅行やイベントへの参加など行動が活発になっているようで、来店周期も早まっている。しかし、物価上昇による経費増加もあるため、景気が良くなるとは言い難い。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・暖かくなると髪の手入れをする人が増える。

▲	商店街（代表者）	・周辺を通る車や歩行者の数が減っている。当店の予約も社用関係が決算期に入ることもあり、8月頃までほとんど入っていない。
▲	商店街（代表者）	・物価高が止まらない。
▲	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・今月はゴールデンウィーク期間を含めて良かったが、夏は例年動きが悪くなる。さらに、中東情勢の影響が不透明である。
▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・中東情勢の影響によるエネルギー不足がプラスに働くことはない。
▲	百貨店（経営者）	・資材包材の値上げ報道が多くなっており、物価高による生活防衛意識は一層高まっている。夏場に向けてのギフト市場でも、贈り先の絞り込みなどによる客単価の下落を懸念している。
▲	スーパー（商品担当）	・ナフサ不足の影響により物価上昇に拍車が掛かり、消費は低迷するとみている。
▲	スーパー（販促担当）	・小売業界では、ナフサ関連の影響により6月から食品トレーや袋など一部商品が値上げされる。中東情勢の先行きは不透明だが、ナフサ不足が続く場合、値上げが続き、川上・川中・川下にわたって景気の改善は見込めず、結果として景気は悪化するとみている。
▲	コンビニ（経営者）	・来客数が前年比95%と大幅に減少し、販売点数も前月まで前年比プラスで推移したが、今月に入り横ばいになっている。
▲	コンビニ（経営者）	・商品価格の上昇と来客数の微減は継続するとみている。販売量の上振れは当面期待できそうにない。
▲	衣料品専門店（経営者）	・暑さは続いているものの、夏物は終わりの時期になり、秋物が動くにはまだ早いため、需要は期待できない。
▲	衣料品専門店（店員）	・晴れ着や節目の準備を目的とした来店が多いため、冠婚葬祭や式典、企業主導のイベントが増えれば需要は増加する。しかし、現在の接客状況からは、そのような動きはみられない。
▲	衣料品専門店（総務担当）	・他業種においても業績が厳しい企業が多い。周辺企業の業績が改善しなければ、小売業もその影響を大きく受けるため、明るい見通しは立たない。
▲	家電量販店（従業員）	・ナフサ不足により、エアコンの部材不足やそれに伴う取付工事の遅延が発生し、影響が出るとみている。
▲	家電量販店（従業員）	・気温が更に高くなり、エアコンを中心とした夏物商材が売れることを期待したいが、中東情勢の影響により石油由来の部材が軒並み品薄状態にあり、既に配管カバーなどは納期が未定となっている。部材不足により取付工事ができない状況も想定されることから、2～3か月先はやや悪くなるとみている。
▲	乗用車販売店（従業員）	・販売台数は低迷しており、メーカー施策だけでは不十分であるため、個社施策を併用して取り組んでいるが伸び悩んでいる。また、用品や部品の価格は、今後更に上昇することが決まっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	・現状、販売量が落ちており、この先も期待できない。
▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・2～3か月先はエネルギーコストの更なる上昇が懸念される。また、中東情勢の影響による修繕資材の高騰により、設備維持のための投資コストの増加も見込まれる。さらに、保険料の高騰などを背景とした人件費の増加もある。各種コストの増加に伴い売上に対する利益幅が縮小している状況から、先行きの見通しは厳しい。
▲	一般レストラン（経営者）	・6月もいろいろな商品の値上げが予定されており、支出に慎重な姿勢は更に強まるとみている。レストランは特別なことがあったときだけ行く場所だとする傾向が高まることを懸念している。
▲	一般レストラン（スタッフ）	・平日ランチタイムの来客数が減っており、致命的になりそうな気配がある。
▲	観光型旅館（経営者）	・中東情勢に起因するナフサ不足に加え、物価高騰や品不足への懸念など不確定要素が多すぎる。好転する兆しはみえない。
▲	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の終息が見えない。
▲	通信会社（営業担当）	・物価は更に上昇するが給与は上がらない。
▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢の先行きが見えない。

	▲	通信会社（営業担当）	・周りを見ても、良くなる材料が見当たらない。
	▲	観光名所（職員）	・ここ1年、予約数は前年実績を上回り来客数が増加していたが、来月の予約数は前年実績を下回っている。今月は振り客に支えられているが、この先は若干落ち込む心配が見え始めている。
	▲	観光名所（職員）	・予約数が伸びていない。
	▲	遊園地（経営者）	・中東情勢や物価上昇の影響により、節約志向が強まるおそれがある。
	▲	ゴルフ場（支配人）	・中東情勢が長期化すれば、国内経済に悪影響を及ぼし、消費行動にも影響が出るとみている。
	▲	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・中東情勢の影響がいつまで続くか見通せない。
	▲	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・実質賃金がマイナスの状況が続くなか、燃料費や電気料金に加え、医療費も上昇しており、節約志向が高まっている。先行きは不透明である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・良くなる材料が見当たらない。
	×	商店街（代表者）	・今後も物価上昇は続き、消費は冷え込むとみている。
	×	スーパー（経営者）	・中東情勢の影響により、6～8月は値上げラッシュが続く。電気料金も高騰が続く。
	×	コンビニ（経営者）	・6月末に近隣で総合ディスカウントストアの出店が予定されており、現在の来客数の伸びはなくなるとみている。
	×	衣料品専門店（店長）	・競合店の完全閉店セールが残り1か月間続く。また、食料品の値上げが増加している。景況感は一向に回復していない。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・既に追加値上げの打診が来ており、即価格に反映するような内容になっている。米価の急騰や物価上昇、中東情勢の影響もあり、今までにない速さで段取りの変更が進んでいる。
	×	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・夏場の売上は非常に厳しくなると予想している。最近では事務服の廃止も増えており、夏物事務服に代わってポロシャツなど簡易的なものが売れているが、単価が全く違うので厳しい状況である。夏場の制服の概念が変わってきているなかで、売上を作るのは非常に厳しい。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価上昇が続くなか、消費マインドは抑制方向に向かい、景気は徐々に停滞していくとみている。来店客からも物価が高いという話をよく聞く。
	×	一般レストラン（経営者）	・中東情勢に不透明感があるなかでの景気回復は難しい。仮に情勢が落ち着き、景気対策が講じられたとしても、効果が出るまで時間を要することから、当面の景気は悪化するとみている。
	×	設計事務所（経営者）	・地元設計事務所が関わることのできる官公庁事業は、件数が減少又は小額化しており、人材不足もあいまって、目標の受注金額や案件数に到達できないことが予測される。
企業 動向 関連 (東北)	◎	建設業（従業員）	・大型の民間インフラ案件の契約が控えている。
	○	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、物資調達のコスト増加や不安はあるものの、受注予測としては上向いている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・ここ2～3か月は客先からの引き合いや受注の積上げ状況が良くなっており、この先も期待が持てる。
	○	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・株価の動向や中東情勢の改善を受けて、景況感は一向に上向くとみている。
	□	農林水産業（従業者）	・資材費の高騰が続いているため、販売価格を上げられればよいが、価格が据置きだと厳しくなる。ナフサ由来の原料不足の影響により利益が減る可能性もある。販売価格次第である。
	□	食料品製造業（製造担当）	・売上が週末に集中しており、平日との格差が大きい。平日の地元客の集客対策を実施している。一方、資材納入の不安定さが各方面に影響を及ぼしつつある。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が収束しない限り、悪い状況は変わらない。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・年内納期の案件は少なく、納期が年明け以降の相談がほとんどである。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連部材の供給遅延もあり、取引先から示されている先行き見通しを下回る受注予測となっている。

□	建設業（従業員）	・資材は、価格が高騰しているほか、納入できないケースが散見される。数か月前から注文している分は確保できているが、今後注文する分は確保できるか不透明である。
□	建設業（従業員）	・資材の価格高騰や納品遅れもあり、受注を増やすことが難しい。景気は変わらない。
□	建設業（従業員）	・中東情勢の影響は懸念されるものの、現状は変わらない。
□	通信業（営業担当）	・取引先に対しては、マイナス要素を避けながら辛抱強く提案を続けていく。
□	通信業（営業担当）	・特段の動きはないため変わらないとみている。
□	広告業協会（役員）	・先行きの経済情勢が不透明であることから、必要最低限の販売促進費にとどめる企業が多い。広告業界の業績は当面、微減で推移する見込みである。
□	広告代理店（経営者）	・相変わらず人手不足感があり、採用目的の企業認知向上意欲は高い。しかし、経済が不安定であるため、積極的な投資にはつながりづらい印象を受ける。
□	その他企業〔企画業〕 （経営者）	・原油価格の上昇や食品メーカーによる値上げの報道が相次いでおり、景気が上向くとは考えにくい。
▲	食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰が利益を圧迫しているため、商品の価格改定を検討しているが、値上げによる更なる売上減少が懸念される。
▲	出版・印刷・同関連産業 （経営者）	・中東情勢の影響により石油関連製品が品薄となっている。メーカー各社からは、値上げを前に在庫処分を進めるための提案依頼が殺到している。
▲	一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、原材料、オイル類等の価格高騰や調達が非常に困難な状況が続いている。先行きが不透明であることから、2～3か月後はやや悪くなるとみている。
▲	一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により塗装業者が稼働日数を減らしており、治具を製作、提供する当社へも影響が出るのが予想される。
▲	輸送業（経営者）	・中小企業においては、前月にも増して燃油や石油由来の原材料の調達が厳しくなっている。仮に中東情勢が早期に解決したとしても、これまでに生じた影響が解消され、サプライチェーンが正常化するまでには長期間を要する見込みである。
▲	通信業（営業担当）	・大手キャリアの料金改定により、コスト意識の高い客の乗換えが活発になる見込みである。
▲	金融業（広報担当）	・ナフサ不足から原料や資材の調達が困難となる事業者が、塗装業、内装業、クリーニング業、縫製業など特定の業種で増加しており、在庫も枯渇しつつある。今後も中東情勢に変化がなく、在庫が完全に枯渇した場合、受注や生産がストップし、影響は最終消費者にまで波及する可能性が高い。
▲	広告代理店（従業員）	・中東情勢の影響により、インク代や用紙代の値上げに関する連絡が前月より更に増加している。冊子類を印刷せずオンライン配信に変更するといった顧客の動きもあり、2～3か月後には売上に大きく影響することが見込まれる。
▲	経営コンサルタント	・原油調達をめぐる供給不安に加え、関連する物価の上昇が続くとみている。
▲	司法書士	・資材の不足や高騰が住宅関連業務に悪影響を与えることが見込まれる。
▲	公認会計士	・石油由来の製品が不足して、原料や小売品等の値上げが続いている。この状況が続くようならば、小売業やサービス業の業績も悪化しそうな雰囲気がある。そして、製造業、建設業関係の業績は更に厳しい状況が続き、全体としてはやや悪くなるとみている。
▲	その他企業〔協同組合〕 （職員）	・中東情勢次第だが、原料・資材価格の高止まりは続く見通しであり、個人消費の冷え込みも予想されることから、景気回復は遅れるとみている。
×	農林水産業（従業者）	・今年の新米価格は、前年産米の出荷価格に比べて大分下がるかとみている。

	×	木材木製品製造業（従業員）	・現状の資材不足や物価高騰、納期遅延といった諸問題が、今後3か月間で解消に向かう見通しは立っていない。それどころか、仕入価格の高止まりや調達難の長期化により、更なる失注や入札不調のドミノ倒しなどより深刻な悪循環へ連鎖していく懸念が極めて強い。現時点において、これら悪条件を払拭できるような新規の受注案件や先々の明るい見通しは全く立っておらず、企業の採算性と事業活動は更に悪化すると考えている。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続く。
	×	不動産業（従業員）	・大企業向けの高額物件の取引は減少するとみられ、中小企業は様子見が続く。個人向けは金利上昇も重なることから、厳しい状況が続くと予想する。
雇用 関連	◎	—	—
(東北)	○	人材派遣会社（社員）	・AIが進化し、社会に急速に浸透しているため、半導体などを中心に景気押し上げ要素が強くなっている。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者数は現状で回復傾向にあるものの、不安定な動きが続いている。求人数は好調に推移している。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・見通しが立たない状況である。
	□	職業安定所（職員）	・物価高騰や中東情勢の影響により先行きに不透明感がある。情勢が好転しなければ状況は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・4月の新規求職者数は前年比では5か月ぶりに減少に転じた。新規求人数は底堅さはあるものの、主要7産業のうち前年比増となったのは建設業、製造業、運輸業であり、卸売・小売業、宿泊・飲食業、医療福祉、サービス業では減少となっている。今後は、中東情勢の影響もあることから、横ばい圏内で推移するとみられる。
	□	職業安定所（職員）	・今後の情勢を不安視する声が多く聞かれる。徐々に影響が出てくる可能性が高い。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り、企業の利益が圧迫される状況は続くと考えられる。
	▲	人材派遣会社（経営者）	・中東情勢の影響による石油由来製品の不足により、リフォーム関係の企業の中には営業自粛若しくは停止しているところがある。機械メーカーでは潤滑油を確保できず、8月以降の操業体制を見直さなければならない状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・求人広告を出している企業の多くが、募集しても希望する人材からの応募が乏しく、特に若い人からの応募がないと話す。当県でも働く世代の流出が既に進んでいる可能性がある。働く人がいなければ景気が上向くこともなく、先行きも明るくない。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響により、燃料油や資材の価格高騰、調達不足が生じており、事業所からは今後を不安視する声が多い。解雇や休業など雇用調整の動きは現時点で見受けられないが、引き続き注視していく必要がある。
	▲	学校〔専門学校〕	・中東情勢などによる経済活動の停滞が懸念される。
	×	アウトソーシング企業（経営者）	・長期契約などもあり、価格転嫁が難しいケースが増えるとみている。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中東情勢の長期化により物価高が続く、景気は悪くなる。